

地域連携パス



宮 崎 県



宮崎県地域連携パスとは

1. このパスは、治療を施行した基幹病院 / 手術病院とかかりつけ医療機関が協力して専門的な医療と総合的な診療をバランスよく提供する共同診療体制を構築することを目的に作成されました。

2. このパスを活用することにより全ての医療機関が協力し、患者さんの視点に立った安心で質の高い医療を提供することを目標としています。

3. 本パスの活用により、患者さんにとっても各医療機関にとっても、治療計画や患者さんの状態の把握が容易となり、待ち時間の短縮がもたらされ、さらには患者さんの不安の解消にも役立つものと考えています。

4. Stage IA・IB の患者さんは、一般的に術後の抗がん剤治療を行う必要はないとされています。しかし、再発に危険性はゼロではなく、定期的な検査が必要です。受診間隔などの具体的な内容は各基幹病院 / 手術病院が策定し、本パスを通して患者さんおよびかかりつけ医療機関などに提示することとなります。

5. なお胃がん以外のがん（肺がん、肝がん、大腸がん、乳がん、婦人科がん、前立腺がんなど）は検査の対象外となります。かかりつけの先生に相談するか、地域の健康診断などをお受け下さい。

宮崎県地域連携パスを用いた診療の流れ



宮崎県地域連携パスとお薬手帳を持っていれば安心です

宮崎県地域連携パスの使い方について

1. 患者さんはパスを受け取ったら、5 ページのお名前、かかりつけ医、保険薬局及び 6 ページの各項目の記入をお願いします。
2. 患者さんは、受診の前に 11 ページ以降の診療記録の上半分に受診日、体重、症状などを記入してください。
3. 基幹病院 / 手術病院の担当の先生は、患者さんにお渡しする前に 7 ページ・8 ページの記載をお願いします。
4. かかりつけ医ならびに基幹病院 / 手術病院の先生は、診療記録の下半分に検査結果、診療所見などを記入して下さい。
 - a) 簡単な記載で結構です。(問題あり・なし程度)
 - b) 問題があり、書ききれない場合や、かかりつけ医、基幹病院 / 手術病院で伝達が必要な場合は、各診療記録の次のページの通信欄に日付とその内容を記載するか、診療情報提供書の発行をお願いします。

かかりつけ医、基幹病院/手術病院の役割

1. かかりつけ医

症状が落ちついているときの投薬や日常の診療は、かかりつけ医で行って頂きます。風邪を引いた場合や体調不良、何か心配なことがあるときには、まずかかりつけ医にご相談ください。適宜必要に応じて基幹病院/手術病院を受診して頂きます。

2. 基幹病院 / 手術病院

基幹病院/手術病院へは節目にも受診して頂きます。(予定表をご覧ください)CTなどの専門的な検査も基幹病院/手術病院で行います。また、緊急を要する場合で休日や夜間等でかかりつけ医を受診できない場合は、基幹病院/手術病院(電話番号は 5 ページにあります)までご連絡ください。

手術記録

手術日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

術式 開腹・腹腔鏡（補助）下・
幽門側胃切除・胃全摘・
噴門側胃切除・ロボット支援下

郭清 D0・D1・D1+ α ・D1+ β ・D2

再建

幽門側胃切除後

B-I



Roux en Y



胃全摘後

Roux en Y

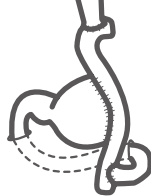


噴門側胃切除後

噴門側胃切除後
空腸間置



ダブルトラクト法



食道残胃吻合



深達度

T□()N□H0P0CY M0

(リンパ節転移個数 _____ / _____)

Stage IA・IB

クレアチニン値 _____ mg/dl

診察・検査予定表 (Stage I A・I B 胃がん)

●は基幹病院/手術病院で行います

○は基幹病院/手術病院またはかかりつけ機関どちらかで行います

手術日 年 月 日			
	1ヶ月以内 退院後	3ヶ月	6ヶ月
問診・診察	●	○	●
採血 (血算、生化、CEA and/or CA19-9)	○	○	○
上部消化管内視鏡検査 胃全摘後の上部消化管内視鏡検査は、1年目は 行いますが2年目以降は年に1回できるかぎ り行います。			
胸腹部 CT 検査 and/or 腹部超音波検査			

	1年		2年		3年		4年		5年
9ヶ月		6ヶ月		6ヶ月		6ヶ月		6ヶ月	
○	●	○	●	○	●	○	●	○	●
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○				○				○
	○		○		○		○		○

診療記録

●基幹病院/手術病院
○どちらでも可

手術日	退院後 1 ヶ月以内	3 ヶ月
/ / /	/	/
受診機関	●	○
体重	kg	kg
下記の症状が持続する場合はチェックを入れてください		
食欲不振	☐	☐
吐き気・嘔吐	☐	☐
胸やけ	☐	☐
下痢	☐	☐
便秘	☐	☐
腹痛	☐	☐
発熱	☐	☐

その他気になる症状

採血 CEA CA19-9		○
内視鏡検査		
CT / US		

診察所見・検査結果

(書ききれない時は通信欄へ)
(保険薬局との連携の為適宜
Cr 値を記入)

6 ヶ月	9 ヶ月	1 年
/	/	/
●	○	●
kg	kg	kg
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐

○	○	○
		○
		○

通信欄

[illegible]

通信欄

[illegible]

診療記録

●基幹病院/手術病院
○どちらでも可

手術日	1年6ヶ月以内	2年
/ / /	/	/
受診機関	○	●
体重	kg	kg
下記の症状が持続する場合はチェックを入れてください		
食欲不振	☐	☐
吐き気・嘔吐	☐	☐
胸やけ	☐	☐
下痢	☐	☐
便秘	☐	☐
腹痛	☐	☐
発熱	☐	☐

その他気になる症状

採血 CEA CA19-9		○
内視鏡検査		
CT / US		○

診察所見・検査結果

(書ききれない時は通信欄へ)
(保険薬局との連携の為適宜
Cr 値を記入)

2年6ヶ月以内	3年	3年6ヶ月以内
/	/	/
○	●	○
kg	kg	kg
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐
☐	☐	☐

○	○	○
	○	
○	○	

通信欄

[illegible]

通信欄

[illegible]

診療記録

●基幹病院/手術病院
○どちらでも可

手術日	4 年	4 年 6 ヶ月以内
/ / /	/	/
受診機関	●	○
体重	kg	kg
下記の症状が持続する場合はチェックを入れてください		
食欲不振	☐	☐
吐き気・嘔吐	☐	☐
胸やけ	☐	☐
下痢	☐	☐
便秘	☐	☐
腹痛	☐	☐
発熱	☐	☐
その他気になる症状		
採血 CEA CA19-9	○	○
内視鏡検査		
CT / US	○	
診察所見・検査結果 (書ききれない時は通信欄へ) (保険薬局との連携の為適宜 Cr 値を記入)		

5 年
/
●
kg
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
☐
○
○
○

自由記載欄

通信欄

[illegible]

通信欄

[illegible]

術後の注意点について

◆後期ダンピング症状

食後 2 時間ほど経った頃に起こる低血糖症状です。

低血糖症状とは「全身の力が抜けそうになる」「冷汗が出る」「手が震える」などがあります。

症状が出た時には、氷砂糖やペットシュガー、あるいは消化の良い物を食べてみましょう。

予防するためには、長時間空腹にしないこと（分食や間食をすること）。食事の際の糖質（糖分や炭水化物、うどんやスパゲッティなど）を少なめにしてみましょう。

☆貧血☆

胃全摘術をされた方は鉄分やビタミン B12 の吸収が少なくなり、だんだん貧血が進行します。ひどい貧血の場合は、注射や内服などで不足した成分を補う必要があります。

*貧血症状（めまい・立ちくらみ・ふらつき・息切れなど）がある場合は、かかりつけの医師に相談してください。

☆逆流性食道炎☆

胃の入り口には「噴門」という胃の内容物が食道に流れ込まないようにする弁の役割をはたす部分があります。胃切除術をうけた場合、胃の内容物（胃液や十二指腸液、食物など）が逆流しやすくなる場合があります。いわゆる「むねやけ」症状がこれにあたります。

できるかぎり予防するためには、就寝時に上体を 10～20 度上げてください。

症状が強い場合には、内服薬による治療も必要となります。かかりつけの医師に相談してください。

☆胃のもたれ☆

残胃に長時間食物が残ったり、消化する力が弱くなることによって起こると思われます。手術後、日が経つにつれて症状は落ち着いてきますが、市販の消化剤を飲んでみてもいいでしょう。症状がなかなか改善しなかったり、吐き気や食欲が極端に落ちてしまうような症状が出たときには、かかりつけの医師に相談してください。

☆下痢☆

手術後は、食後すぐにトイレに行きたくなる事があり、また下痢や軟便が長期にわたり続くことがあります。早期ダンピング症状や消化力が落ちている事が原因となります。症状が数週間と長く続くようであれば、かかりつけの医師に相談してください。

☆便秘☆

便は 2～3 日に 1 回であることを確認してください。便秘の場合は市販の下剤を飲んでいただいてもかまいません。ただし、腸閉塞が原因で便秘症状が起きている場合に下剤を飲んでしまうと逆効果です。症状がひどくなってしまいます。

腸閉塞の症状とは、「ガスがでない」「お腹が張る」「吐気・嘔吐がある」「お腹が激しく痛む」などです。このような症状が出現した時には、すぐにかかりつけの医師の診察を受けてください。

術後の注意点について

☆日常生活について☆

退院後はいつも通りの生活を心がけてください。体力の回復や筋力低下防止のために、散歩などを日課に取り入れて、規則正しい生活をしましょう。

傷の痛みが少なくなり傷がきれいになりましたら、温泉や旅行など、どんどん行動範囲を広げてみましょう。

退院直後のバイクや自動車の運転は危険です。時々急にお腹が痛くなることがあり、とっさのブレーキが間に合わず、事故を招きます。十分に傷が癒えたところで短距離から慣らしてください。

お仕事をされている方は、体の調子と相談しながら、疲れない程度からはじめて、徐々に通常の仕事に戻してってください。

お酒は小腸に急に入ると、すぐに吸収されるので、以前より酔いやすく、さめやすい状態になります。少しずつ始めるのがいいと思われそうですが、必ず医師と相談してからはじめてください。お酒は「がん」の原因にもなります。

☆内服薬について☆

処方された薬は忘れずに、時間を守って飲んで下さい。

☆定期受診について☆

退院後はご自分の体の状態や再発の有無を知るためにも必ず、忘れずに受診してください。

☆緊急時の連絡について☆

まず、かかりつけ機関に、ご連絡ください。基幹病院 / 手術病院での診療・治療が必要と判断された場合には、基幹病院 / 手術病院の外科（緊急外来）を受診していただきます。

医療機関の皆様へ

胃がん術後合併症に対する対処について

症状は患者個人個人で異なるため、治療方法に関しては特に規定や制限は設けておりません。ご使用になる薬品など、日常、先生方が処方されている内容で治療していただくのが最も良いと考えます。以下に通常胃がんの術後に外来で遭遇する機会の多い症状につきまして、一般的に行っている患者への指導内容および対処方法をまとめました。ご参考いただければ幸いです。

食事について

食事摂取方法

胃切除術後の食事摂取の方法は、施設により若干異なりますが、術後 4 日～ 7 日目より流動食ないし五分粥・5～6 分割食（3 食の間、10 時と 15 時（と 20 時）に軽いおやつ）で開始し、全粥食・6 分割食を約 30% 以上摂取できる状態となる術後 10 日～ 14 日をめどに退院としています。全ての患者に対して退院前に栄養指導を行っており、①よく噛むこと、②食事量は少しずつ、ゆっくりと増やすこと、③摂取量が少ないときには食事回数を増やすこと、④栄養のバランス、⑤水分摂取を十分に行うよう注意することを指導しています。食事内容についての制限は行っておりません。食事摂取量が安定するまでは食事の間のおやつを必ず取るようにしてもらい、栄養状態が悪化するような場合は半消化栄養剤や輸液などで経過観察します。高齢者など退院後に栄養状態が悪化し食事摂取が不可能となる場合もあり、経腸栄養や TPN を早い段階で施行する必要があります。

ダンピング症状

早期・後期いずれのダンピング症状に対しても、一般的に行われる食事摂取方法を工夫するように指導することで対応しています。

早期ダンピング：食後すぐ(30分ほど)に起こる動悸、発汗、めまい、眠気、腹鳴、脱力感、顔面紅潮・蒼白、下痢などの症状が出現します。高濃度の糖質を多く含んだ食事が急激に小腸に流れ込むことが原因とされますので、流動性の高い甘味の強い食事や消化吸収の良い糖質（うどんやパスタなど）を避けるように指導します。食事中の水分摂取をひかえるのも良いとされています。症状が改善しない場合は一回の食事量を減らし、分食回数を増やすことを勧めています。

後期ダンピング：食後 2 時間ほど経ったところに突然の脱力感、冷汗、倦怠感、めまいなどの症状が出現します。食後の一時的な低血糖が原因とされますので、食後 2 時間くらいに間食としておやつを食べてもらい、食事の際の糖質を少なめにとってもらうように指導しています。

投薬について

● 鉄剤・ビタミン B12 の投与

経過中、鉄欠乏性貧血や大球性正色素性貧血など貧血症状をきたした場合、鉄剤、ビタミン B12 製剤の内服療法を行います。内服治療に反応しない症例に対しては注射薬で対応します。内服薬は通常量を処方しており、血清鉄、ビタミン B12 血中濃度が安定していれば、市販のサプリメントでも良好に治療できる症例も多く認めます。

● 逆流性食道炎の治療薬

逆流性食道炎については就寝時の上体挙上(10～20°)を指導しています。逆流症状が著明な症例に対しては、タンパク分解酵素阻害薬(メシル酸カモスタット)の投与を行っています。タンパク分解酵素阻害薬投与でも症状が軽減しない場合は、プロトンポンプインヒビターや粘膜保護剤が有効な場合もあります。

● 消化剤・制酸剤

胃もたれ感や腹部膨満感などの症状に対して使用しています。使用薬剤については特に規定は設けておらず、各症状に応じた治療薬を投与しています。

● 止痢薬または緩下剤

胃切除術後に長期間にわたって下痢または便秘症状が持続する場合があります。術後早期では自然軽快することが多いと思われますが、長期間持続する症例に対しては各症状に応じた止痢薬または緩下剤を使用しています。

緊急対応

● イレウスへの対応

胃がん術後の外来経過観察中に緊急の対応が必要になるのは主にイレウス症状です。イレウスは初期治療が大切になりますので、腹痛、嘔気などのイレウス症状が出現した際にはすぐに診察を受けるように指導しています。診察、各種検査でイレウスが確定した場合、基本的には入院の上、治療を開始します。症状が極めて軽微な場合には輸液、1～2食の絶食で経過観察しても良いかと思いますが、できるかぎり入院をお勧めしています。

● 胆石、無石胆のう炎

胃切除後には通常より胆石ができやすくなります。また、術後比較的早期には、無石胆のう炎を起こすこともあります。有症状の胆石は、胆のう摘出術（開腹胃切除後でも腹腔鏡下胆摘が可能な場合もあります）の適応です。胆石発作や胆嚢炎が疑われる場合には、エコーで確認して治療を開始していただくか、基幹病院／手術病院への受診をお勧めください。

相談への対応について

こんな時、お気軽にご相談下さい

がんと診断
されて不安

セカンドオピニオンは
どうやって
受けたいの？

仕事は
どうしたら
いいのだろう

がん治療の
ことについて
聞きたい

今後の生活が
不安

主治医から
説明を受けたが
難しくて
よくわからない

治療による
副作用が心配

医療費は
どのくらい
かかるのか

主治医に
上手く思いを
伝えられない

家族が
がんになったけど
私にできることは？

★その他、気がかりなこと等、遠慮なくご相談下さい

Q. 利用方法・利用料金は？

A. 主に電話と面談による相談ができます。

面談をご希望の場合は、予約制を取っている病院もあります。
まずはお問い合わせください。利用料金は無料です。

Q. 相談したことは
主治医や家族に報告されるの？

A. 相談者のプライバシーは厳守されます。

内容によって、主治医やご家族に伝えたほうが良いと思われる場合は、
相談者の同意を得てからお伝えします。

宮崎県のがん相談支援センター

宮崎大学医学部附属病院

(電話) 0985-85-1909

(対応時間) 月～金 9:00～16:00【祝祭日を除く】

独立行政法人国立病院機構 都城医療センター

(電話) 0986-23-4111

(対応時間) 月～金 8:30～17:15【祝祭日を除く】

宮崎県立宮崎病院

(電話) 0985-38-4107

(対応時間) 月～金 9:30～16:15【祝祭日を除く】

宮崎県立日南病院

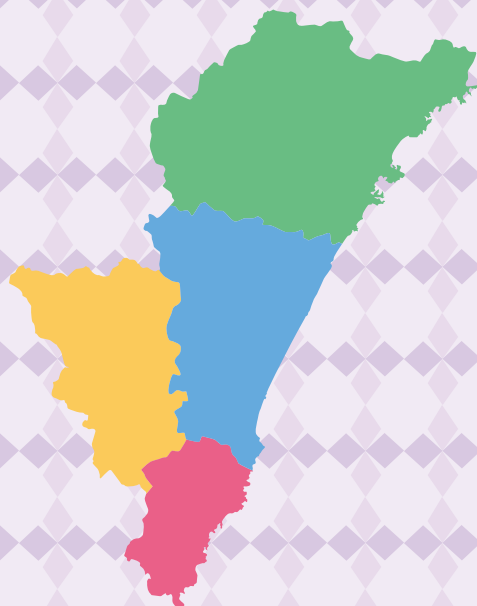
(電話) 0987-23-3156

(対応時間) 月～金 9:00～15:50【祝祭日を除く】

宮崎県立延岡病院

(電話) 0982-32-6181【代表】

(対応時間) 月～金 9:00～16:00【祝祭日を除く】



ご意見がございましたら下記にお寄せ下さい

この手帳について

宮崎県がん診療連携協議会 事務担当

TEL.0985-85-9758

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原 5200
宮崎大学医学部附属病院内

その他のことについて

宮崎県福祉保健部健康増進課

TEL.0985-26-7079

〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東 2-10-1